琉球大学学術リポジトリ

高機能自閉症児における社会性障害の改善に関する研究

メタデータ	言語: 出版者: 神園幸郎 公開日: 2009-03-06 キーワード (Ja): 高機能自閉症児, 社会性障害, 自己制御, ファンタジー, 自閉的ファンタジー, 共同注意, 愛着関係, 指さし キーワード (En): high-functioning autism, social disorder, self-control, fantasy, autistic fantasy, joint attention, attachment, pointing 作成者: 神園, 幸郎, Kamizono, Sachiro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/9087

377.7
KA
2003
学内科研

平成15年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(C) 15530431)研究成果報告書

高機能自閉症児における社会性障害の改善に関する研究

平成19年3月

研究代表者　神園幸郎

(琉球大学教育学部)

琉球大学附属図書館

0020074006224

はじめに

この報告書は、文部科学省・日本学術振興会の科学研究費補助金の助成を受けて平成15年度から平成18年度に実施した「高機能自閉症児における社会性障害の改善に関する研究」（基盤研究(C)(2)、課題番号：15530431、研究代表者：神園幸郎）の研究成果をまとめたものである。

近年、広汎性発達障害の裾野が広がり、知的に高い自閉性障害児やアスペルガー症候群などの高機能広汎性発達障害の割合が増加してきた。高機能広汎性発達障害児が示す社会性障害は決して軽くはなく、知的に高いがゆえに逆に適応上の問題は一層深刻になる場合が多い。特に、学齢期に入り学校教育における社会的交流場面が多くなるにつれて、問題が顕現化し、いじめをはじめとする多くの困難に遭遇するようになる。こうした子ども達の障害の理解や指導方法については、現在のところ有効な枠組みは見出されておらず、ノーマリゼーションを基軸とする特別支援教育を推進する上で、その対策は急務である。

筆者は高機能自閉症児についての臨床経験から、彼らの発達の特徴を自己制御機能の質的変化として描くことができると考えている。まず、発達初期の幼児期は制御機能そのものが働かず、生活のすべてに養育者の介助を必要とする段階である。次の時期は他者の指示によって行動が可能となるが、いわゆる指示待ち行動のように、行動のすべてが他者の指示によって支配される、いわば「他者制御」の段階である。この時期はWingの類型による「受動型」に相当し、他者の適切な関わりが保障されれば、生活上の問題は比較的少なく、適応的に経過する。そして、最後の段階では、「他者制御」を内化することによって、自己制御を可能にする内的構造が成立し、自己制御が稼動し始める。しかし、この段階の自己制御は特定の他者モデルを取り込んだ結果、実現したものであるために、それが作動することによって逆に特有な問題行動が顕在化し、多くの困難な事態を迎えることになる。学齢期に顕現化する高機能自閉症児の社会性障害は、この段階の特徴を最も良く表している。この段階において、高機能自閉症児は生活上の不適応状態を回避するために、特定の場や状況、さらには、そこで交わされた言葉を特定の他者モデルと同時に取り込み、内化することによって、ある種の適応性を得ることができる。しかしながら、彼らはこの適応性を得ることと引き換えに、外在する生身の他者との柔軟な対話的やり取りを阻む内的構造を形成することになったと仮定されるのである。このように、高機能自閉症児の社会性障害は彼らに特有な自己制御機能から生成されると仮定すると、硬直化した自己制御機能をもたらすことになった特定の他者モデルの取り込みに介入することによって、彼らの社会性障害を改善する方策を得ることができる可能性がある。そこで、本研究は上述した筆者の臨床的な仮説を、縦断的な事例の追跡によって検証し、高機能自閉症児の社会性障害の改善プログラムを構築することを目指した。

本研究を実施するにあたり、ご協力いただいた幼児・児童及びご父母の皆様方に厚く御礼を申し上げると共に、この報告書が高機能自閉症児に対する教育的支援や特別支援教育

の推進に少しでもお役に立てれば望外の喜びである。また、本研究は科学研究費補助金の助成を受けて実現された。本研究の機会を与えていただいた文部科学省・日本学術振興会に対して深謝するとともに、本研究の遂行にあたり多くの方々からいただいた貴重なご助言やご協力に対して、心より感謝申し上げる次第である。

平成19年3月

国立大学法人
琉球大学　教育学部　教授
神　園　幸　郎

平成15年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書

目 次

はじめに

研究の概要 ---------- 1

研究成果（論文）

自閉性障害児の社会性障害と模倣の関係について
－ある自閉性障害児における親子関係の変遷を通して－ ---------- 5

高機能自閉症児における「不自然な動作」の認知・社会的背景 -------- 25

高機能自閉症児における社会性障害の特徴とその背景
－共同注意行動の分析を通して －---------- 41

ある高機能自閉症児の「指さし行動」の特徴 ---------- 55

ある高機能自閉症児における社会性の発達と描画の変化 ---------- 67

研究成果（学会発表抄録）

高機能自閉症児における「指さし動作」の特徴 ---------- 81

自閉症児の社会性障害と社会的コミュニケーション行動の関係について 83

高機能自閉症児における「不自然な動作」の成り立ち ---------- 85

高機能自閉症児における共同注意行動の出現の背景とその特徴 -------- 87

高機能自閉症児における自他認知の発達 ---------- 89

高機能自閉症児における社会性の発達と描画の変化 ---------- 91

高機能自閉症児の社会性障害とファンタジー世界への傾倒 ---------- 93

研究の概要

1. 研究目的の概要

高機能自閉症児における社会性障害は、他者モデルの取り込みによる硬直化した自己制御によって、外在する生身の他者との柔軟な対話的やりとりを阻む内的構造が形成されることから生起するとの仮説的な発生機序を想定した。この作業仮説を出発点として、高機能自閉症児における社会性障害の起源を多角的に検討した。

2. 研究組織

研究代表者：　神　園　幸　郎　（琉球大学・教育学部・教授）

3. 研究経費

研究経費の交付決定額（配分額）は以下のとおりである。

金額単位：千円

	直接経費	間接経費	合計
平成 15 年度	1700	0	1700
平成 16 年度	500	0	500
平成 17 年度	500	0	500
平成 18 年度	800	0	800
計	3500	0	3500

なお、平成 18 年度分については、「研究計画最終年度前年度の応募」の「高機能広汎性発達障害児の社会性障害とファンタジー世界への傾倒」が新規に採択されたため、辞退することとなった。

4. 研究成果の概要

1）模倣と社会性障害

自閉症児における模倣と社会性障害の関係について検討した。本研究課題に関連した先行研究（平成 10 年度~平成 13 年科学研究費補助金基盤研究(C)(2)「自閉症児のコミュニケーション指導に関する研究」研究代表者：神園幸郎）「自閉症児における対人関係の変遷と鏡像反応の関連について」（神園・ 豊里・又吉 , 2002）で対象とした事例について、親子の交流場面で見られた模倣がどのような経緯で出現し、それがどのような変化の過程を辿るかを、親子の関係性の質的変遷との関連で検討した。その結果、自閉症児が示す音声模倣と動作模倣の特徴は両者ともに親子の関係性の質的変遷と密接に関連していることが明らかになった。これらの知見に基づいて、自閉症児における模倣と社会性障害との関係が考察された（本報告書、5~24 ページ）。

2）姿勢・運動と社会性障害

高機能自閉症児における社会性障害の一因として彼らが示す姿勢・運動の特異性に着目して、その認知・社会的背景を検討した。先行研究の「自閉症児における姿勢・運動の特性」（神園，1998）で提唱された枠組みを継承した上で、新たに発達的な視点を導入して自閉症児の運動・動作における認知・社会的な背景を描き出し、自閉症児の社会性障害との関連を検討した。その結果、自閉症児が示す「不自然な動作」には、制御機能の関与が薄いものと、制御機能に大きく依存したものがあることが明らかになった。とりわけ、制御機能に依存した「不自然な動作」は、認知や社会性の発達と密接に関係しており、自閉症児の姿勢・運動の特異性の中核をなしていることが判明した。これらの結果から、自閉症児が示す「不自然な動作」は、神経生理学などの生物学的な機能や構造に起源を持つものは少なく、むしろ、自閉症児に特有な認知や社会性の特性に起源を持つものが多いことが明らかになった（本報告書、25～39ページ）。

3）共同注意行動と社会性障害

高機能自閉症児の社会性障害の特徴を共同注意行動の分析を通して検討した。指さし（pointing）、さし出し（giving）、提示（showing）などの共同注意行動に着目して、ある高機能自閉症児と2名の大人の特定の他者との関係性をそれぞれ1年間ずつ2年にわたって観察した。その結果、対象児とそれぞれの他者との遊び場面に出現した共同注意行動は、関わりの初期には出現頻度は低く、その後セッションの回数を重ねるにつれて次第に増加するものの、ある時点を頂点として減少に転じ、頂点に達するまでのセッション回数とほぼ等しい回数で関わりの初期の水準にまで減少した。こうした傾向は、約1年間のズレがあるにもかかわらず、対象児と関わった2名の他者との関係において同様に確認された。対象児と特定の他者との二者関係の分析から、共同注意行動の増加期は、対象児にとってまさに見知らぬ他者が特定の他者に変わり、その特定の他者への愛着を形成する時期と重なることが明らかになった。ところが、特定の他者を愛着対象とみなした関わりが成立してしばらくすると、対象児はファンタジーに浸ることが多くなり、結果として二者の関わりは次第に希薄になった。これらの結果は共同注意行動と対人社会性との相関関係を表すとともに、高機能自閉症児における社会性障害の起源として愛着関係が成立した後に出現してくるファンタジーへの傾倒現象が注目されてきた（本報告書、41～54ページ）。

4）指さし行動と社会性障害

高機能自閉症児に出現する指さし行動のなかで、叙述や要求の指さしに該当しない指さし行動、例えば、絵本に描かれた絵を見る際に自ら絵を指さすといったような、自らの注意を当該の対象に向けるための自己志向的な指さし行動や、その他、多様な機能を持つと思われるような指さし行動が多数認められる。これら従来の指さし行動の範疇に属さない自閉症児の多様な指さし行動の発生機序を、その動作的側面に着目して発達的に描き出した。ある高機能自閉症児の0：06歳から5：10歳までのＶＴＲ記録に基づいて、指さし行動の発達変化を分析した。その結果、観察対象とした期間は、質的に異なる3つの時期に区分できた。すなわち、それらは、母親の指さし行動をそのままなぞる指さし行動が出現する「無制御期」（0：06～3：04）、他者と自己の相補的な指さしの随伴関係をなぞる指さし行動が出現する「他者制御期」（3：05～3：09）、そして、内的活動が活性化し、ファンタジーへの傾倒現象が出現する頃に、肥大化した内的活動の一端が指さし行動として現実場面に出現する「自己制御期」（3：10～5：10）であった。とりわけ、「自己制御期」における内的活動の発露としての指

さし行動は、高機能自閉症児において特徴的であり、社会的な場面において適応を阻む働きをしていることが明らかになった。高機能自閉症児の社会性障害を改善するための支援方法を考える上で、内的活動の発露としての指さし行動は、一つの糸口になるかもしれない（本報告書、55～66ページ）。

5）描画と社会性障害

高機能自閉症児における社会性の発達と描画の変化の関連性について検討した。社会性の発達については、自己認知・他者認知の発達を基盤として分析し、描画の発達変化については、描かれている対象及び内容、描画方法などから認知的背景を分析した。その結果、社会性の発達については、(1) "行為と情動の随伴的他者理解"（2歳6ヶ月から4歳3ヶ月）、(2) "意図的行為主体としての他者理解"（4歳4ヶ月から6歳8ヶ月）という二つの時期に区分された。一方、描画については出現頻度の高かった人物画、アニメのキャラクター、電柱を主な分析対象とした。その結果、描画の発達変化は、(1) "取り込みの描画"（2歳7ヶ月から4歳3ヶ月）、(2) "内面が投影された描画"（4歳4ヶ月から6歳8ヶ月）という質的に異なる二つの時期に分けられた。社会性の発達と描画は、ほぼ同じ時期に質的な転換が出現することから、対象児の描画、とりわけ人物画の発達変化は、社会性の発達をよく反映することが明らかになった（本報告書、67～80ページ）。

5. 研究発表

1）学会誌等

神園幸郎・豊里優奈・又吉ゆうき（2003） 自閉性障害児の社会背障害と模倣の関係について ーある自閉性障害児における親子関係の変遷を通してー. 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要, 第5号, 23－42.

松島はるか・神園幸郎（2004） 高機能自閉症児における「不自然な動作」の認知・社会的背景. 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要, 第6号, 73－86.

神園幸郎（2005） 高機能自閉症児における社会性障害の特徴とその背景 ー共同注意行動の分析を通してー. 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要, 第7号, 13－25.

松島はるか・神園幸郎（2006） ある高機能自閉症児の「指さし行動」の特徴. 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要, 第8号, 57－67.

大城理恵・神園幸郎（2007）ある高機能自閉症児における社会性の発達と描画の変化 印刷中

2）学会発表

松島はるか・神園幸郎（2003） 高機能自閉症児における「指さし動作」の特徴.

日本特殊教育学会第 41 回大会発表論文集.

又吉ゆうき・豊里優奈・神園幸郎（2003） 自閉症児の社会性障害と社会的コミュニケーション行動の関係について. 日本特殊教育学会第 41 回大会発表論文集.

松島はるか・神園幸郎（2004） 高機能自閉症児における「不自然な動作」の成り立ち. 日本特殊教育学会第 42 回大会発表論文集.

神園幸郎・豊里優奈（2004） 高機能自閉症児における共同注意行動の出現の背景とその特徴. 日本特殊教育学会大 42 回大会発表論文集.

湧川華奈子・神園幸郎（2005） 高機能自閉症児における自他認知の発達. 日本特殊教育学会第 43 回大会発表論文集.

大城理恵・神園幸郎（2006） 高機能自閉症児における社会性の発達と描画の変化. 日本発達心理学会第 17 回大会発表論文集.

湧川華奈子・神園幸郎（2006） 高機能自閉症児の社会性障害とファンタジー世界への傾倒. 日本特殊教育学会第 44 回大会発表論文集.